防災教育DVD

推薦：一般社団法人 防災教育普及協会
監修：杏林大学 医学部 救急医学 主任教授　山口 芳裕

救えたはずの命
災害関連死から学ぶ

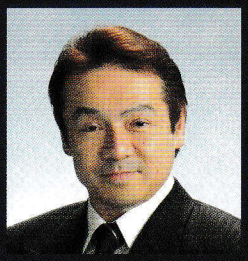
一般向け／約22分

5万人規模の避難者が発生した「令和6年能登半島地震」

被災者が強いられた避難生活の実態とは

災害関連死が起こる3つのパターンを徹底解説

監修のことば



杏林大学医学部救急医学
主任教授
山口 芳裕

震災による死亡は、津波や家屋・建造物の倒壊などによる死亡と、避難生活中に病気に罹ったりもともとの持病が悪化したりすることによる死亡、の２つに分けられます。このうち、後者すなわち地震や津波による直接的な死は免れたのに、その後の厳しい避難生活の中で命を落としてしまう「災害関連死」は、過去の地震や水害のたびにくり返し発生しています。2011 年の東日本大震災では 3794 人が認定されているほか、2016 年の熊本地震では、地震による直接の死者数 50 人を上回る 218 人が災害関連死であったと言われています。

この災害関連死に対して、一般的には、“急性期の直接的な脅威を乗り越えた後の慢性期の問題”と捉えていらっしゃる人が多いように思います。しかし実際に災害関連死が発生した時期をみると、例えば東日本大震災では１週間以内が 18%、１カ月以内が 48%、３カ月以内が 78% であり、熊本地震では１週間以内が 24%、１カ月以内が 57%、３カ月以内が 81% でした。つまり、災害関連死で亡くなる方の８割は３カ月以内に亡くなっているのです。このことは、落ち着いてきたからそろそろ災害関連死のことも考えようか、ではなく、災害の発生当初からしっかりと念頭に置いて対策を積み重ねていかなければ、災害関連死を防ぐことはできないということを示しています。

この教材がそうした意識を広め、災害関連死を一人でも減らすことに役立つことを願います。

EIGAKUSYA
映学社作品

映学社に無断でこのチラシを改変することを固く禁じます。

防災教育ＤＶＤ

推薦：一般社団法人 防災教育普及協会

一般向け/約22分

救えたはずの命 災害関連死から学ぶ

企画意図

2024年元日の「令和６年能登半島地震」では、家屋の倒壊などにより、住民だけでなく帰省者や旅行者も被災し、５万人規模の避難者が発生しました。人々は避難所や農業用ハウス、車の中などで、過酷な避難生活を強いられたのです。“大地震を生き延びながら、避難生活の中で命を落とす災害関連死をいかに防ぐか”が、大きな課題となっています。

本作品では、地震後に被災者が強いられた避難生活の実態と問題点を、被災者のインタビューを交えながら解説します。そして災害関連死が発生するパターンを３つに分けて示しながら、これらを防ぐための心がけや工夫について紹介します。

大地震を生き延びるためには、直接的な地震被害から身を守った後に避難生活があること、そのための備えも欠かせないことを示しながら、日頃の防災活動への意識を高めることを訴えます。

作品の概要

令和6年元日に起きた「令和6年能登半島地震」。住宅の倒壊やライフラインの途絶により、住民、帰省していた家族、観光客など、多くの人々が避難所や自宅、車の中などで、過酷な避難生活を強いられました。

そんな環境下で数多く発生したのが、「災害関連死」です。

■令和6年能登半島地震後の避難生活の実態

今回の震災において多くの避難所では、集団生活のストレスや寒さ、数が少なく不衛生なトイレ、水や食料の不足など、悪条件の重なる過酷な避難生活となりました。また、自宅や車の中、農業用ビニールハウスなど、避難所以外で厳しい避難生活を送る人々も多く存在しました。

実際に被災した方々の証言から、その詳しい様子を伝えていきます。

■災害関連死の原因、対応と備え パターン１
災害時や避難生活の中で負ったケガや病気による死亡

低体温症、感染症、エコノミークラス症候群について、専門家の話を聞きながら、原因と発生の仕組み、具体的な対策を解説していきます。

また、災害関連死のリスクを減らす対策として重要な選択肢となる「在宅避難」について、その準備や方法、留意点を見ていきます。

■災害関連死の原因、対応と備え パターン２
もともとの持病の悪化による死亡

災害に付随した環境の変化によって「今までと同じ医療の継続ができなくなって亡くなる」「薬が手に入らなくなって亡くなる」などの問題が生じます。そのための事前の備えについて、方法を解説していきます。

■災害関連死の原因、対応と備え パターン３
地域の人間関係から孤立し 精神的・身体的負担から死亡

健康で避難所生活を乗り越えられた後でも、もとのコミュニティから切り離されて孤独に陥ったり、住宅や就労など経済的不安がのしかかったりして、重度のうつ状態や自殺につながる危険があります。

こうしたことを防ぐために、阪神・淡路大震災後に神戸市のある復興住宅で始まった「お茶会」や、能登半島地震の被災地で実際に行われている活動を紹介します。

監修

監修：杏林大学 医学部 救急医学 主任教授
山口 芳裕

価格

ライブラリー価格 本体 **¥68,000**（税込 ¥74,800）

スタッフ

企画・制作統括：髙木 裕己　　撮　　影：照屋 真治
プロデューサー：堤　謙一　　小宮 康広
脚 本・演 出：川崎 けい子　　イラスト・CG：正者 章子

制作・著作／株式会社 映学社
■DVD［カラー］※字幕版も収録されています
■2024年・映学社作品

○ 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者等の著作権者に帰属しています。
これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。
○ 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧下さい。
なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。

株式会社映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.
〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL：03-3359-9729（代表）　FAX：03-3359-4024
info@eigakusya.co.jp
https://www.eigakusya.co.jp/

●お問い合せ、お買い上げは……